

プロジェクトマネージャー: 原田 康德 PM

(日本電信電話株式会社 NTT コミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員)

1. プロジェクト全体の概要

オリジナリティが高いアイデアを、短期間ではあるが可能な限り高度な実装能力を駆使して、最終的にエンドユーザが使えるものとして提供することを目標とする。

提供にあたって、ドキュメントなどは含めなくてもよい。

プロジェクト中は様々な試行錯誤を行うが、方針を決めてからは、一気に完成度の高いものを制作する。

2 プロジェクトについては、想定されるエンドユーザに実際に使用してもらう場を設け、そのフィードバックを開発に活かした。具体的なエンドユーザを想定したため、開発の方向性がぶれることなく、とにかくまずは動くものを作ることができたと思う。

3 プロジェクトとも、PM の指示によく従い、開発期間中に大きなジャンプをしてくれたのが非常によかったと思う。

2. プロジェクト採択時の評価(全体)

採択時にどのようなものが開発されるのか予想がつくものよりも本人に強い熱意と能力が備わっているかどうか、根のアイデアのオリジナリティが秀逸であるかどうか、を採択の基準とした。

PMの過去の指導を振り返ると、かなり最初の段階で大きなダメだしをしている。最初の打ち合わせでは、各自のプロジェクトの本当の強みはなにで、弱みはなにで、どの方向に進めると具体的なユーザがいそうで、といったことを議論し、その結果、申請書とかなり違ったものになる、ということが予想される。その際に、根のアイデアがしっかりしたものでないと、うわついてしまうのと、本人の強い熱意がなければ、乗り越えてくれない。

そこで、その部分を重視して採択した。本人たちの能力が高いことももちろん重要であるが、これはなかなか実際に開発を見てみないとわからない。

3. プロジェクト終了時の評価

まず、開発者4名とも開発能力が非常に高かった、という点が良かったことであろう。

いかによいアイデアで、強い熱意を持っていたとしても、開発能力が伴わなければ、空振りに終わってしまう。そういった例が過去にあった。開発能力に関しては、なかなか事前に分からないのであるが、今回は4名とも能力が高かったのが良かった。

その結果、開発中の議論や方針変更などで、迅速に開発を進めることができた。PMとしても、安心して、より難易度の高い課題を設定出来、短時間でのすばらしい成果につながったのだと思われる。

3プロジェクトとも、採択時の想定をはるかに超えた成果に仕上がった。また、それはゴールに到達したというよりも、今後の可能性を秘めた、それを見た人たちに次々と発想が湧くような成果になった。それらは、彼らの最初のアイデアの筋が良かったことと、それに対する熱意が本物であった証拠である。